



おたより

2020年度 第2号

5月27日
桜の聖母短期大学
親と子のひろば

みなさん、いかがお過ごしですか？

桜の聖母短期大学では、5月11日から開講し、ようやく新入生と進級した2年生と会うことができました。様々な感染対策を講じ、学生の不安に応じながら登校日を設け遠隔授業も始まりました。リモート!? ZOOM!? 馴染みのない言葉と世界に戸惑いながらも研修を繰り返し、遠隔での授業方法を探りながら準備を進める毎日でした。授業する方も受ける方も遠隔授業初心者ですから、「映ってる?」「聞こえてる?」とお互いに質問しながら教え合いながらです。人と向き合うことを大切にしてきた毎日が、PCやスマートフォンと向き合う毎日になってしまいました。それでも、授業を通して学生と対話ができる喜びをかみしめています。双方とも眼精疲労と肩こりを伴っていますけどね!

・・・ということを使い訳に「親と子のひろば」おたより第2号の発行が大分遅くなってしまいました。



玄関から1メートル歩いただけで・・・

玄関から1メートル歩いただけで、子どもたちの目は、あらゆるものを見つけています。丸い石ころに手を伸ばして握りしめると、満足そうな笑顔でこちらを見ます。そして、また一步進むと、もう片方の手で今度はごつごつした石を握ります。ちょっと顔をしかめています。感触が違うのですね。最初の丸い石を放り投げ、ごつごつした石を両手で持ち替えながら眺め、またポイっと投げてしまいました。すると風がさーっと吹いてきました。その子は目をつむり、まるで全身で風を味わっているようです。特別なイベントに参加しなくても、大きな公園に行かなくても、玄関から1メートル歩いただけで、子どもたちは大冒険をしています。

子どものところに降りて行って、時間を一緒に感じさせてもらおうと、植物や昆虫たちと同じ「生き物」として、ここに存在している感覚になります。そして、言葉を交わさなくても生き物同士の“対話”が成り立ってしまいます。



お家で過ごすことが多くなると、きょうだいゲンカも多くなったように思いませんか？ さっきまで、仲良く遊んでいたのに！ そこで、『あふれるまで愛をそそぐ 6歳までの子育て』より「きょうだいゲンカの賢いおさめ方」を引用してご紹介します。

きょうだいげんかというのも、昔からお母さんの悩みのタネです。

園でも、子どもたちはしょっちゅうけんかをしてくれますので、私もずいぶんたくさんけんかにつきあってきましたが、あることに気づいてからは、けんかの扱いに迷わなくなりました。

たとえば、おもちゃの取り合いでけんかをしているというとき、大人の頭に、こっちがよくてあっちが悪いという意識があると、絶対にうまく収まりません。

健ちゃんが遊んでいたおもちゃを太郎ちゃんがほしくなって、取り合いのけんかになったとします。そのとき、

「健ちゃんは今までずっと遊んでいたんだから、ちょっと太郎ちゃんに貸してあげればよかったね」

というようなことを一言いっただけで、健ちゃんはその大人を信頼しなくなります。

このときに、

「太郎ちゃん、あなたはあのおもちゃで遊びたかったのね。その気持ち、わかるよ」

「健ちゃんはそのおもちゃで楽しく遊んでいたのよね。だから太郎ちゃんに貸してあげるのがいやだったのよね。その気持ちも、わかる」

というように、でんとして、今日はお迎えにくるまでの8時間、両方に共感してあげよう、気持ちを受け入れてあげようと思うと、なぜかあとから取ろうとした子どもがすーっとあきらめていきます。必ずそうなります。

そういうのはきょうだいげんかのときに応用できますね。

下の子がいつけにくると、お母さんは、「お兄ちゃんのくせに、だめでしょ」とか、「お姉ちゃんが悪い」というように、上の子をしかって収めようとすることが多いのですが、それでは上の子が納得しません。きょうだいげんかの仲裁でも、両方のいい分をよく聞き、両方に公平に共感することが大切です。

しょっちゅうきょうだいげんかをされると、親はうんざりして、どちらかをしかって早く収めようとしてします。

でも、すぐ解決しようとしなくて、一度腰をすえて、二人のいい分を途中でさえぎらないで、最後までじっくり聞いてやってはいかがでしょう。そうすると、上の子には上の子のいい分が、下の子には下の子のいい分があることが、親だけではなく子ども同士にもよくわかります。きょうだいげんかは、一方的にどっちが悪いと決めつけられないことが多いのです。

その上で、お母さんは、「太郎のいい分はわかったよ。次郎のいい分もよくわかった。よく聞くと、二人ともちっとも悪くない。お母さん、どっちが悪いかなんていえない」と正直にいえばいいのです。それできょうだいげんかをしなくなるわけではないのですが、子どもたちは、少なくとも相手にもいい分があることを学んでくれるはずです。

『あふれるまで愛をそそぐ 6歳までの子育て』本吉圓子著 KANZEN

お庭の報告

短大のお隣の幼稚園もコロナの影響で休園中ですが、預かり保育の子どもたちの姿を見かけます。「エンドウ豆が立ったよ。見に来ない？」と声を掛けると、先生と一緒に来てくれました。「どこ?」「どれ?」と探し、「あったー!」と嬉しい声! 子どもたちに見つけてもらって、私も嬉しくなりました。そして、ジョウロでたっぷり水をあげてくれました。畑の野菜もブルーベリーの木も喜んでいるようでした。



ジャガイモ畑も元気ですよ。力強く育っています。かわいい紫色のつぼみもつきました。子どもたちにも見せてあげたいな～。



ブルーベリーは、今年たくさん花を咲かせました。花が終わった後を見ても・・・ブルーベリー!
今年もたくさんの実をつけてくれそうです。その頃「親と子のひろば」は、再開できているかな～

・・・再開ならずとも、子どもたちにたわわに実ったブルーベリーを見せてあげたいな～



続きまして・・・

Q「この実は何でしょうか？」

そうです！ 梅です。

広場の入口の梅の木に、今年も実がなりました。



昨年は、梅シロップと梅ジャムを作りましたね。甘酸っぱい梅ジュースを飲みながら、日頃の子育ての話をしましたね。今年も梅シロップを作りますよ。収穫は、6月中旬頃です。

今年度の庭プロジェクトメンバーです！
三密を避け、マスクをしながら庭でミーティングを開きました。今年もこの庭でどんな展開があるのか楽しみです。学生たちのパワーは、コロナには負けません！



庭のシロツメクサも子どもたちと遊べる日を待っているようです。
一日も早く新型コロナウイルスが収束し、あの日常が戻りますように。

それまでは、おたよりでつながっていきましょう。

文責 奥田美由紀



桜の聖母短期大学

🏠 福島市花園町 3-6

☎ 024-534-7137

(代表)

